

貧酸素水塊速報 (2017年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
 神奈川県水産技術センター
 千葉県農林水産技術会議
 内湾底びき網研究会連合会

【協力】 千葉県環境研究センター
 第三管区海上保安本部
 ○ 東京都環境局
 (国)国立環境研究所
 ○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)
 (今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

平成29年7月6日観測結果

貧酸素水塊は内湾北部から横浜港沖にかけて広く分布しています(図1)。羽田沖には、溶存酸素量が0.5mL/L以下のほぼ無酸素の水塊がみられています。

縦断ラインのDO鉛直分布では、貧酸素水塊は扇島沖で海底から15m程の厚みがあり、規模も拡大傾向です(図2, 3)。

内湾北部のほぼ全域で、海面が褐色を呈する赤潮状態になっています。

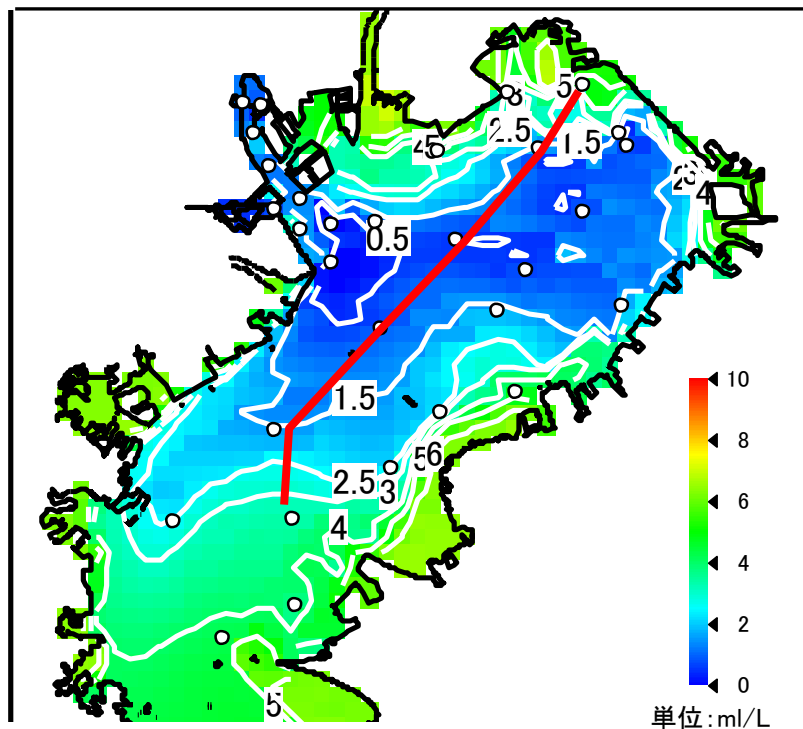


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

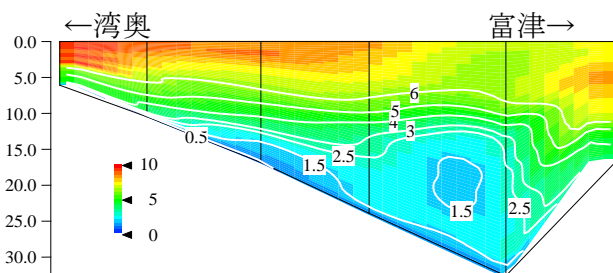


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

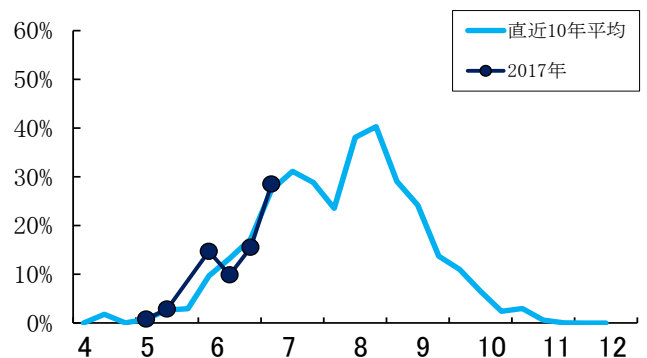


図3 貧酸素水塊の規模

(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)